

# 104-284

## 問題文

45歳男性。結腸がんによる結腸切除術後に全身に転移が見られ、処方1により疼痛コントロールを行っていた。今回、疼痛増悪による疼痛コントロール目的で入院となり、処方2に変更となった。

(処方1)

オキシコドン塩酸塩水和物徐放錠 20 mg	1回1錠 (1日2錠)
オキシコドン塩酸塩水和物徐放錠 10 mg	1回1錠 (1日2錠)
	1日2回 8時、20時 14日分
オキシコドン塩酸塩水和物散 10 mg	1回1包
オキシコドン塩酸塩水和物散 5 mg	1回1包
	疼痛時 10回分

(処方2)

オキシコドン塩酸塩水和物徐放錠 40 mg	1回1錠 (1日2錠)
	1日2回 8時、20時 3日分
オキシコドン塩酸塩水和物散 20 mg	1回1包
	疼痛時 5回分

入院時に薬剤師が行った痛みの評価では、「午後になると痛みが強くなる、NRS(Numerical Rating Scale)：8/10」、「どのタイミングか不明だが突然痛みが出る。痛みが出始めるとすぐに強い痛みとなる、NRS：8/10」とのことであった。

処方2の薬剤服用開始後に行った評価は、「午後になると強くなる痛みは改善、NRS：3/10」、「突然痛くなる状況は変化がない、NRS：8/10」であり、この結果を受けて緩和ケアチームで患者の処方を検討することになった。

## 問284

緩和ケアチームの薬剤師は、オキシコドン塩酸塩水和物散からの処方変更を提案した。代替の薬剤として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1. フェンタニル経皮吸収型製剤
- 2. フェンタニルクエン酸塩舌下錠
- 3. モルヒネ硫酸塩水和物徐放性細粒
- 4. モルヒネ塩酸塩水和物坐剤
- 5. モルヒネ塩酸塩注射液

## 問285

前問での提案の理由として最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1. 初回通過効果の回避
- 2. 有効血中濃度の持続
- 3. 速やかな薬効の発現
- 4. バイオアベイラビリティの改善
- 5. 副作用の回避

## 解答

問284：2問285：3

## 解説

#### 問284

問285 とまとめて解説します。

#### 問285

がん性疼痛を強オピオイドでコントロールしているが、突出痛に対し、コントロール不能状態の患者です。突出痛は、発生が急で、持続時間が短く、数十分のうちに自然に軽減することが特徴です。

そのため、オキシコドン散という「散剤」よりも、より速く血中濃度が有効濃度に達するような剤形を用いることで、**速やかな薬効発揮を期待**します。さらにモルヒネと比較すると、フェンタニルは活性代謝を受ける必要がない点も、速やかな薬効発現という点からより推奨できると考えられます。具体的には、アブストラル **舌下錠** が想定されます。

以上より、問284 の正解は 2 です。

問285 の正解は 3 です。